

昭和十一年六月  
昭和十二年四月改訂

我が國現下の人口問題

財團法人人口問題研究會

本稿ハ 研究員館稔ノ 執筆ニカカル 未定稿ナリ

目次

一、人口問題ノ意義  
二、我が國現下ノ人口現象ノ特性

(1) 人口増加

(2) 出生

(3) 死亡

(4) 自然増加

(5) 年齢構成ノ變化

三、我が國現下ノ人口問題

甲、國內問題

(1) 人口ト食糧トノ問題

(2) 人口ト資源トノ問題

(3) 人口ト産業トノ問題

(4) 生活標準問題

(5) 都鄙人口問題

(6) 人口再分布問題

(7) 人口卜教育制度卜問題

(8) 產兒制限問題

(9) 優生問題

(10) 植民地人口問題

### 乙、國際問題

(1) 基本的事實

(2) 國際貿易

(3) 移植民

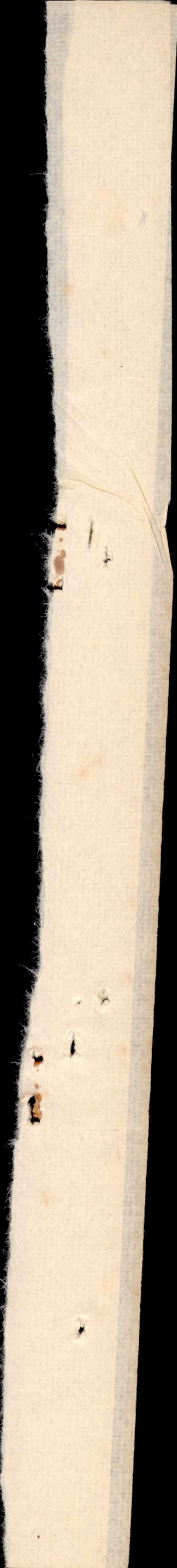
### 四、結論

參考統計表











(3) 人口と産業との問題

激増スル生産年齢人口ニ職業ヲ與ヘ國民  
經濟ノ擔當者トシテノ人口ニ能力發現ノ機會ヲ與フルニ非ズンバ生  
活標準ノ低下ハ不可避ニシテ現存社會經濟組織ニ反撥シ國內  
政局ノ不安ヲ擴大シ他面將來ニ於ケル人口停滯ノ傾向ヲ促進スベシ。  
激増スル生産年齢人口ニ職業ヲ與フル為ニ産業全般ニ亘リテ一大  
振興策ヲ講セザルベカラズ。

(1) 有業率 大正九年—昭和五年ニ於テ有業率ハ低下セリ。之人口増加

ニ職業増加ガ追隨シ得ザリシ證據ナリ。不況ノ深化、産業合理化、  
社會立法、教育ノ發達等其ノ原因ナリト見ラル。有業率ノ低下ハ  
憂慮スベシト雖モ、從來ノ老朽婦人幼年者ガ壯年者ニヨツテ代置  
サレタル部分モ少カラズ。何レニシテモ有業率ノ低下ハ産業振興ノ急務  
タルコトヲ指示ス。

(四) 農業 有業者ノ四割八分ヲ包攝スル大産業ナリ。大正九年—昭和五年

ニ於テ農業人口ハ極メテ僅少ナリト雖モ減少セリ。農業ノ人口包攝力ハ極メテ乏シ。農業技術、農業經營ノ改善發達、開墾、工業ノ立地、移動等ハ農業ニ尚人口收容ノ餘地ヲ與フト見ラル。工業化必然論ハ農業ノ没落ヲ前提シ。此ノ傾向ハ或ル程度迄否定スルヲ得スト雖モ、急激ナル農業ノ崩壞ハ著シキ社會的動搖ヲ隨伴スルモノニシテ、退却ハ秩序的タルコトヲ要ス。他面農業政策ノ民族政策化ヲ唱導スルモノアリ。何レノ見地ヨリスルモ、少クモ現在ノ農業人口ノ維持ハ当分必要ニシテ農業振興ヲ必要トス。是等ノ莫ニ関シ、社會行政ハ重大ナル意義ヲ有ス。

(ハ) 工業 大正九年——昭和五年ニ於テ工業人口ハ僅カニ増加ヲ示セリ。技術ノ發達、合理化ノ進展ヨリ工業就業人口ノ増加ハ遲々タリト雖モ、工業生産力ハ著シク増大セリ。從ツテ商業人口ノ増加ノ一部ハ工業發展ニヨルト見ラル。工業就中人口收容力ノ大ナル工業ノ發達ヲ圖ラザルベカラズ、中小工業ノ人口收容力ハ大ニシテ、中小工業ニ對スル認識ヲ改メ、

之が維持存続ヲ圖ル必要アリ。社會立法ト關係スルトヨロ大ナリ。

工業分散ニ関シテハ(6)参照

(二) 商業 大正九年—昭和五年ニ於テ商業人口ハ著シク増加セリ。(ハ)ノ

如ク工業生産力ノ増大ニヨル増加アリト雖モ半失業的ノ人口ノ流入少カラズ。工業ト相並ンデ商業ヲ振興シ增加人口ノ收容ニ努メザルベカラズ。

(ホ) 其他ノ産業 就中水産業交通等ノ發達ヲ圖ルベク。鑛業ハ

工業ト關聯シテ振興ヲ圖ルベク。經濟ニ對スル國家統制ノ傾向ハ公務自由業人口ヲ増加セシムル傾向アリ。

(4) 生活標準ノ問題 産業ヲ振興シ移植民ヲ獎勵シ生活標準ノ上

昇ニ努ムルハ論ヲ俟テスト雖モ生活標準ノ社會階級的懸隔ノ縮少ヲ圖ルモ亦肝要ナリ。國民皆貧論ハ此ノ真ニ於テ意義ヲ有ス。

(5) 都鄙人口ノ問題 人口都市集中ハ驚クベキ速度ヲ以テ進行シ生産

年齢人口激増ト相立シテ現下我が國人口現象ノ重要ナル特色ヲナセリ昭和十  
年國勢調査ノ結果ニヨレバ四百八十萬ノ増加人口ノ六割ガ大都市ヲ擁スル  
東京、大阪、京都、神奈川、兵庫、愛知、福岡、三府四縣ニ流入シタルヲ示セリ、人口  
都市集中ノ結果農村ハ生産年齢人口ノ多クヲ失ヒ、養老院化、育兒院化シ  
ツアリ、此、莫ニ農村租税負擔輕減ノ一根據ガ存ス、農村出生率ハ高ク、  
多クノ人口ヲ養育シテ都市ニ送りツアリ、然ルニ地方財政經費ノ大部分ヲ占ムル  
ル義務教育費ナリ、故ニ地方經費ハ國費化シツアリ、此、莫ニ地方財政  
獨立論ノ根據ハ薄弱トナリ、地方財政調整論ノ有力ナル根據ガ存在ス。

(6) 人口再分布ノ問題 急激ナル人口都市集中ハ幾多ノ社會的經濟的問  
題ヲ隨伴ス、都鄙間ニ於ケル人口再分布ノ必要ガ存在ス、地域的ニ  
考察スレバ北海道及ビ東北地方ハ内國植民上研究スベキ地域ナリ、  
此、莫ニ亦再分布ノ必要存在ス、再分布ヲ可能ナラシムル重要ナル條  
件ハ工業ノ地方分散ナリ、農村工業化論ハ之ト關聯シテ重要ナル意

味ヲ有ス、工業ノ地方分散ハ工業ト農業トノ經濟的調和ノ一策タリ。

東北問題ハ之ト肉聯シテ考慮サルベキナリ。

(7) 人口ト教育制度トノ問題 義務教育延長論ハ生産年齢人口ノ激增

ノ職業戦線ヘノ壓迫ヲ緩和スルト莫ニ効果アリ、實業教育重要論ハ

生産年齢人口激增ノ趨勢ニ對シ根柢ヲ有ス、郷土教育重要論ハ農

業人口安定化ノ効果ヲ有ス。

(8) 産児制限問題 現在問題トナル人口ハ既ニ生レタル人口ニシテ、産

児制限ハ現下ノ人口問題ノ核心ヲナスモノニアラス、我が國人口ノ將

来ノ傾向ヲ鑑ミルモ、國家トシテ之ヲ是認スベキニアラス。

(9) 優生問題 眞ノ民族國家ノ發展ハ其ノ構成要素ノ數ノミナラス

質ニ依存ス、優生運動ガ質ノ向上ヲ目的トスル限リ積極的ニ之ヲ是

認スベキ根柢アリ。

(10) 植民地人口問題

(イ) 朝鮮 朝鮮人の内地流入ハ我が國出移民ノ數ヲ相殺シテ餘リアリ  
内地在住朝鮮人數ハ我が國失業人口ヲ凌駕スルノミナラス、其ノ  
自然増加極メテ顯著ナリ。

(ロ) 臺灣 内地人の定住數少ク本島人の増殖力ハ驚異的ニシテ  
統治上經濟上重大ナル注意ヲ要ス。

(ハ) 南洋委任統治諸島 開發及ビ内地人口ノ移植ニ努ムルヲ要ス。

## 乙、國際問題

(1) 基本的事實——世界二十億ノ人口中其ノ三分ノ一ヲ占ムル  
白色人種ハ世界面積ノ八割七分ヲ支配シ、世界人口ノ三分ノ二  
ヲ占ムル有色人種ハ僅カニ世界面積ノ一割三分ヲ支配スルニ過  
ギズ。然ルニ白色人種ハ何レモ△型人口現象ニ屬シ、支配面積ニ  
對シテ自ラ植民シ、或ハ之ヲ開發スベキ人的要素ニ乏シ。然ルニ有  
色人種中高キ文化程度ト著シキ人口増加力ヲ有スルハ我が民族  
ノミ。國際資源分布ノ不均衡ハ國際政局動搖ノ禍根タリ。

(2) 國際貿易——國際貿易ノ發展ヲ伴ハザルニ於テハ工業化ノ意  
義ハ乏シ、國際貿易發展ヲ圖ルハ論ヲ俟タスト雖、戰前國際分業関  
係ノ恢復ハ不可能ニシテ新シキ貿易論ニ立脚シテソノ進展ヲ圖ルヲ要ス。

(3) 移植民——移植民ノ數ハ僅カニ三万余ニ過ギズシテ人口増殖ヲ緩和  
スル効果ニ乏シキガ如シト雖、一ツハ海外ニ於ケル經濟的發展ニ爲シ、一ツハ民族的

見地ニ於テ將來人口趨勢ニ鑑ミ極力之ヲ保護獎勵セザルベカラズ。

#### 四、結 論

以テ要之我が國現下人口問題ノ核心ハ激増スル生産年齢人口ヲ如何ニシテ支持スベキヤト云フ點ニ在リ。更ニ我が國人口將來趨勢ニ鑑ミル時ハ如何ニシテ民族的自滅ヲ豫メ防止スルヤト云フ問題ガ存在ス。

之等ノ問題ニ對シテハ一面經濟的見地ニ於テ産業ノ振興國際貿易ノ發展ヲ圖リ、特ニ農村ノ崩潰ヲ防止シ人口地域的並ニ職業間移動ノ調整ヲ圖リ激増スル生産年齢人口ノ包攝ニ努ムル共ニ工業化都市化ノ急激ナル進展ニ伴フ社會的動搖ヲ防止スルコトニ努ムルヲ要ス。次ニ民族的見地ニ於テ内ニ農村ノ振興ヲ圖リ人口質ノ向上ニ努ムル共ニ外ニ移植民ノ保護獎勵ニヨリテ民族ノ海外發展ニ努ムルコトヲ要ス。



参考統計表

第一表 我が國人口増加

年次	人口数
明治五年(一八七二年)	三四、八〇六、〇〇〇
" 十三年(一八八〇年)	三六、六四九、〇〇〇
" 二十三年(一八九〇年)	三九、九〇二、〇〇〇
" 三十三年(一九〇〇年)	四三、八四七、〇〇〇
" 四十三年(一九一〇年)	四九、一八四、〇〇〇
大正九年(一九二〇年)	五五、九六三、五〇三
" 十四年(一九二五年)	五九、七三六、八二二
昭和五年(一九三〇年)	六四、四五〇、〇〇五
" 十年(一九三五年)	六九、二五一、二六五

年平均増加率(人口千三付)

六 八 九 一 三 三 五 四

備考

大正九年以降八國勢調査人口、明治四十三年以前八内閣統計局編「明治五  
年以降我國ノ人口」ニ據ル、調査日次八大正九年以降八十月一日、明治四  
十三年以前八年首、但シ明治五年ノシハ一月二十九日、

### 第二表 上田貞次郎博士ノ推計將來人口

年次	總人口	生産年齡人口
昭和十五年(一九四〇年)	七、一八四六 <small>千人</small>	四〇、三九九 <small>千人</small>
二十一年(一九四五年)	七、五二六一	四三、三〇六
二十五年(一九五〇年)	七、八三五五	四五、九六三
三十一年(一九五五年)	八、一、一四四	四八、四一一
三十五年(一九六〇年)	八、三、五八二	五〇、三九二
四十一年(一九六五年)	八、五、七七六	五二、〇七一
四十五年(一九七〇年)	八、七、七二三	五三、三八四

第三表 本會推計將來人口

年次	推計人口
昭和十五年(一九四〇年)	七三、〇四〇
二十二年(一九四五年)	七六、八〇三
二十五年(一九五〇年)	八一、八四〇
三十一年(一九五五年)	八七、一六九
三十五年(一九六〇年)	九二、七五八
四十一年(一九六五年)	九八、六三九
四十五年(一九七〇年)	一〇四、七九七

千人

第四表

我が國人口動態 (人口千ニ付)

年次	出生率	死亡率	自然増加率
大正元年	三三、三	一九、九	一三、四
" 二年	三三、二	一九、四	一三、八
" 三年	三三、七	二〇、五	一三、二
" 四年	三三、一	二〇、一	一三、〇
" 五年	三二、七	二一、五	一一、二
" 六年	三二、三	二一、四	一〇、九
" 七年	三二、二	二六、八 (流感)	五、四
" 八年	三一、六	二二、八	八、八
" 九年	三六、二	二五、四 (流感)	一〇、八
" 十年	三五、一	二二、七	一二、四
" 十一年	三四、二	二二、三	一一、九



# 第五表 年齢構成ノ變化（人口千二付）

年次	0-14才	15-59才	60才以上
明治三十一年（一八九八年）	三二八	五八九	八二
“三十六年（一九〇三年）	三三四	五八二	八二
“四十一年（一九〇八年）	三四二	五七二	八五
大正二年（一九一三年）	三四九	五六二	八七
“九年（一九二〇年）	三六五	五五三	八二
昭和五年（一九三〇年）	三六七	五五九	七四
“十五年（一九四〇年）	三五九	五六二	七八
“二十年（一九四五年）	三四三	五七五	八一
“二十五年（一九五〇年）	三二九	五八六	八三

備考 大正二年以前ハ上田博士ノ本籍人口修正比率、大正九年及ビ昭和五年八國勢調査報告ニ據リ、昭和十五年以後ハ上田博士ノ推計ニ據ル。

第六表 産業別人口ノ比較

家 事	公務自由業	交通業	商 業	工 業	鉦 業	水 産 業	農 業	有 業 者	總 人 口	有業者10,000中		大正九年ニ比シ増(△)減(○)
										昭和五年	大正九年	
八〇三、一六七	二〇〇、五一九二	九四五、一一六	四九〇、五六五	五八七、五九九一	三一五、四七六	五六八、四三六	一四、一三一、〇二五	二九、六一九、六四〇	六四、四五〇、〇〇五	昭和五年	大正九年	大正九年ニ比シ増(△)減(○)
六六三、〇七二	一五二、六七六五	九五、八六三	三、六六一、六四九	五、一三八、七五八	四四七、七二七	五三六、六〇四	一四、二八六、五九二	二七、二六〇、七八四	五五、九六三、〇五三	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	八四、八六、九五二
二七一	六七七	三一九	一、六五六	一、九八四	一〇七	一九二	四、七七二	一〇、〇〇〇				
二四三	五五六	三四九	一、三四三	一、八八五	一、六四	一九七	五、二四一	一〇、〇〇〇				
一四〇、〇九五	四八八、四三七	△ 六七七七	一、三四四、〇〇六	七三七、二三三	△ 一三三、三四一	三一、八三二	△ 一五五、五六七	△ 三、三五八、八五六	△ 八四、八六、九五二			
一一二	三三二	△ 七	△ 三四〇	一四三	△ 二九五	五九	△ 一一	△ 八七	△ 一五二%			

其他産業	七〇、五八二	五八七、六四	二四	二二	一一、八一八	二〇一
無業者	三四、八三〇、三六五	二八、七〇二、二六九	—	—	六一、三八〇、九六	二一四

備考 内閣統計局「大正九年及昭和五年産業別人口ノ比較」ニ據ル

總人口千ニ對スル有業率昭和五年 四六〇、大正九年 四八七

### 第七表 都市化

市町村 人口階級	實數				割合			
	昭和十年	大正九年	明治三十二年	昭和十年	大正九年	明治三十二年		
總數	六九、二五四、一四八	五五、九六三、〇五三	四五、四〇三、〇四一	一〇〇〇・〇	一〇〇〇・〇	一〇〇〇・〇		
一萬 未満	三七、五〇二、四二二	三七、九二六、九三一	三七、三五九、八〇七	五四一・五	六七七・七	八二二・九		
一萬—五萬	一〇、五四八、六三七	九、一七七、二〇六	三、七七二、八四三	一五二・三	一六四・〇	八三・一		
五萬—十萬	三、六八五、〇二〇	二、一〇五、三一八	七、七二四、八一	五三・二	三七・六	一七・〇		
十萬 以上	一七、五二八、〇六九	六、七五三、五九八	三、四九七、九一〇	二五三・〇	一二〇・七	七七・〇		



### 第八表 朝鮮人口ノ増加

年次	人口	年平均増加率(人口千)	内地年平均増加率(人口千)
大正九年	一七、二六四、一一九	二五	一三
十四年	一九、五二二、九四五	一五	一五
昭和五年	二一、〇五八、三〇五	一七	一四
十年	二二、八九八、六九五		

備考 昭和五年人口中、内地人口ハ約五〇萬、外國人口七萬、大正九年八公薄人口

### 第九表 臺灣人口ノ増加

年次	人口	年平均増加率(人口千)	内地年平均増加率(人口千)
大正九年	三、六五五、三〇八	一八	一三
十四年	三、九九三、四〇八		

昭和五年

四五九、五三七

二八

一五

十年

五二一、三七一九

二五

一四

備考 昭和五年ニ於テ總人口中、本島人口四二二四、三六〇。

# 第十表 人種別世界人口及支配面積

人種別	人口		支配面積	
	實數	百分比	實數	百分比
白色人	六七八 <small>百萬</small>	三三	四七、〇〇〇 <small>千方哩</small>	九〇
有色人	一三五二	六七	五、〇〇〇	一〇
計	二〇三〇	一〇〇	五二、〇〇〇	一〇〇

備考 西野入徳教授ニ據ル



